

はらみいたけのり

孕 石 孟則教授 略歴および業績一覧

略歴

1939（昭和14）年11月	大阪府布施市（現東大阪市）に生まれる
1959（昭和34）年4月	京都大学法学部入学
1963（昭和38）年3月	同 卒業
同年4月	京都大学大学院法学研究科民刑事法専攻修士課程入学
1964（昭和39）年9月	司法試験合格
1965（昭和40）年3月	同 修士課程修了（京都大学法学修士）
同年4月	司法修習生
1967（昭和42）年4月	神戸地方裁判所判事補
1971（昭和46）年4月	福井地方裁判所（兼福井家庭裁判所）判事補
1973（昭和48）年4月	同 武生支部判事補
1974（昭和49）年4月	京都地方裁判所判事補
1977（昭和52）年4月	青森地方裁判所（兼青森家庭裁判所）八戸支部長・判事
1980（昭和55）年4月	大阪地方裁判所判事
1983（昭和58）年4月	大阪地方裁判所（兼大阪家庭裁判所）岸和田支部判事
1986（昭和61）年4月	高知地方裁判所（兼高知家庭裁判所）判事
1987（昭和62）年4月	高知家庭裁判所（兼高知地方裁判所）判事
1988（昭和63）年4月	高松高等裁判所判事
1991（平成3）年4月	神戸地方裁判所（兼神戸家庭裁判所）尼崎支部判事
1993（平成5）年4月	同（部総括）
1996（平成8）年4月	大阪高等裁判所判事
1999（平成11）年4月	大阪家庭裁判所判事（部総括）
2004（平成16）年3月	同 退官（依願）

同年4月	龍谷大学法学部教授
同年12月	弁護士登録（大阪弁護士会）

業績

著書

小室ほか編「基本法コンメンタール民事訴訟法」(執筆担当) 1972(昭和47)年
日本評論社

林ほか編「不動産取引事故百科」(執筆担当) 1974(昭和49)年 金融財政

村松ほか編「判例コンメンタール⑩民事訴訟法Ⅲ」(執筆担当) 1976(昭和51)
年 三省堂

林編「注解判例民法・債権法Ⅰ」(執筆担当) 1987(昭和62)年 青林書院

林ほか編「注解不動産法第6巻不動産登記法」(執筆担当) 1988(昭和63)年
青林書院

小室ほか編「基本法コンメンタール第4版民事訴訟法2」(執筆担当) 1992(平
成4)年 日本評論社

林編「注解判例民法・民法総則」(執筆担当) 1994(平成6)年 青林書院

林ほか編「注解判例民法・物権法」(執筆担当) 1999(平成11)年 青林書院

野田ほか編「家事関係裁判例と実務245題(判タ1100号臨時増刊)」(執筆担当)
2002(平成14)年 判例タイムズ社

論文

「英米不法行為法における過失と因果関係－ポールスグラフ事件を中心として－」
1965(昭和40)年(修士論文)

「行為の適法性と違法性－表見代理と不法行為－」(林ほか編「判例不法行為法」
所収) 1966(昭和41)年 有信堂

「指名債権の二重譲渡と関係当事者の法律関係－確定日付のある債権譲渡通知の
同時到達と弁済請求を中心として－」(林還暦記念「現代私法学の課題と展望
(下)」所収) 1982(昭和57)年 有斐閣

「指名債権の二重譲渡と関係当事者の法律関係」(後藤ほか編「展望判例法1」所
収) 1983(昭和58)年 判例タイムズ社

「遺留分減殺請求の調停事件において生じる諸問題」（右近ほか編「家事事件の現況と課題」所収） 2006（平成18）年 判例タイムズ社

「成年後見制度の活用に向けて」（判例タイムズ1253号） 2008（平成20）年 判例タイムズ社

講演録

「成年後見制度の活用と問題点」（日弁連編「平成13年版研修叢書・現代法律実務の諸問題」所収） 2002（平成14）年 第一法規

むらいとしくに
村井敏邦教授 略歴および業績一覧

略歴

1941（昭和16）年9月8日	大阪市北区浮田町に生まれる
1947（昭和22）年4月	島根県野波村立小学校入学
同 年9月	大阪市立十三小学校に転入
1951（昭和26）年9月	寝屋川市立寝屋川小学校に転入
1952（昭和27）年9月	東京都新宿区立淀橋第六小学校に転入
1954（昭和29）年4月	東京都新宿区立淀橋中学校入学
1957（昭和32）年4月	東京都立新宿高校入学
1960（昭和35）年4月	一橋大学商学部入学
1964（昭和39）年3月	同 卒業
同 年4月	同大学法学部学士入学
同 年10月	司法試験合格
1966（昭和41）年3月	一橋大学法学部卒業
1966（昭和41）年4月	最高裁判所司法研修所・司法修習生
1968（昭和43）年4月	司法修習終了
同 年4月	一橋大学法学部助手（刑法）
同 年4月	日本刑法学会会員（1989年5月～理事、2000年5月～ 2003年5月理事長）
1973（昭和48）年3月	一橋大学法学部専任講師
1974（昭和49）年4月	東京女子大学文理学部非常勤講師（法学）（至1983 （昭和58）年3月）
1978（昭和53）年1月	一橋大学法学部助教授

1981（昭和56）年4月	アメリカ合衆国カリフォルニア大学バークリー校 客員研究員（至 同年8月15日）
1984（昭和59）年8月	一橋大学法学部教授
1985（昭和60）年3月	イギリス、ロンドン経済政治大学（LSE）法学 部客員研究員（至 同年8月）
同 年8月	アメリカ合衆国カリフォルニア大学バークリー校 客員研究員（至 1987（昭和62）年3月）
1988年（昭和63）	司法試験（第二次試験）考査委員・刑事訴訟法（至 1991年）
同 年11月	静岡大学人文学部非常勤講師（刑事政策）（至同年12 月）
1989（平成元）年4月	九州大学法学部非常勤講師（刑事訴訟法）（至1990 （平成2）年3月）
1990（平成2）年11月	静岡大学人文学部非常勤講師（刑事政策）（至同年12 月）
1992（平成4）年12月	九州大学大学院法学研究科非常勤講師（刑事訴訟法） （至1990（平成2）年3月）
1993（平成5）年4月	中央大学法学部非常勤講師（刑法各論）（至1994（平 成6）3月）
1994（平成6）年12月19日	島根大学法学部非常勤講師（刑法）（至同月22日）
1995（平成7）年1月	日本DNA多型学会会員（2000年12月～評議員（至現 在））
同 年4月	国土館大学法学部・法学研究科非常勤講師（刑事訴 訟法）（至2001年3月）
同 年9月	新潟大学法学部非常勤講師（刑事訴訟法）
1996（平成8）年5月	一橋大学法学部長（至1998年4月）

1998（平成9）年4月	国際基督教大学社会科学科非常勤講師（刑法） （至1999年3月）
2000（平成12）年4月	龍谷大学法学部教授（刑法）
同 年4月	一橋大学大学院法学研究科非常勤講師（刑法研究） （至同年9月）
同 年4月	立命館大学法学研究科非常勤講師（比較刑事法研究） （至2002年3月）
同 年4月	九州大学大学府法学研究院非常勤講師 （刑事法特殊問題）（至2003年3月）
同 年11月	法と心理学会会員（2000年11月～理事）
2001（平成13）年9月	新潟大学法学部非常勤講師（刑事証拠法）
同 年10月	立命館大学法学部非常勤講師（刑法）（至2002年3月）
同 年11月	矯正・保護研究センター（センター長 至2010年3月）
2004（平成16）年4月	龍谷大学法科大学院教授（刑法）
2009（平成21）年4月	立命館大学法科大学院非常勤講師（刑事訴訟法） （至同年9月）
同 年5月	弁護士登録（京都弁護士会）
2010（平成22）年3月	龍谷大学定年退職

業績

§ 単書

公務執行妨害罪の研究 1984年 成文堂

刑法——現代の「犯罪と刑罰」(法律学への第一歩 (4) 第1版1990年、新版
2005年 岩波書店

刑事訴訟法 1996年 日本評論社

罪と罰のクロスロード 2000年 大蔵省印刷局〔主に時法1472～1519号論文から
編纂。〕

民衆から見た罪と罰——民間学としての刑事法学の試み(龍谷大学矯正・保護研
究センター叢書) 2005年 花伝社〔主に法セ連載「知られざる罪と罰」から編
纂〕

裁判員のための刑事法ガイド 2008年 法律文化社

§ 編著書、共編著書

刑法改悪(新日本新書)(生田勝義・斉藤豊治・松岡正章と共著) 1976年 新
日本出版

現代刑法学原論(刑法理論研究会編) 初版1983年、再版1987年 三省堂

(訳) 漂流する少年——現代の少年非行論 デイヴィッド・マッツァ著、非行理論
研究会(上芝功博・榎本正也・西村春夫・吉田弘之と共訳) 成文堂 1986年

現代刑事訴訟法 初版1990年、第2版1998年 三省堂

コンピュータ犯罪と現代刑法(日本弁護士連合会・刑法改正対策委員会編)
1990年 三省堂

石松竹雄判事退官記念論文集「刑事裁判の復興」 1990年 勁草書房

(訳) アメリカ刑法学史——犯罪、法および学者たち ゲルハルト・O・W・ミュ
ラー著、斉藤豊治と共訳 1991年 成文堂

少年司法と国際準則(比較少年法研究会) 1991年 三省堂

福田平・大塚仁博士古稀祝賀・刑事法学の総合的検討(上)(下)(福田雅章・名
(龍法 '10) 42 - 3, 868 (1455)

- 和鉄郎・篠田公穂と共編) 1993年 有斐閣
- 刑事弁護 1993年 日本評論社
- 現代令状実務25講 後藤昭と編著 1993年 日本評論社
- 検証 付審判事件——全裁判例とその検討 高山俊吉・二瓶和敏と共編 1994年
日本評論社
- 風早八十二先生追悼論文集「啓蒙思想と刑事法」(東京刑事法研究会編) 1995年
勁草書房
- 世界諸国の少年法制 1994年 成文堂
- 刑事弁護の技術(上)(下) 竹澤哲夫・渡辺保夫と共編 1994年 第一法規出版
社
- (訳) 監獄における人権／日本〈ヒューマン・ライツ・ウォッチ・レポート〉
ヒューマン・ライツ・ウォッチ、アジアヒューマン・ライツ・ウォッチ・ブリ
ズン・プロジェクト著、刑事立法研究会 1995年 現代人文社
- (訳) 疑わしきは……——ベルショー教授夫人殺人事件 エレン・ゴドフリー著、
村井のり子と共訳 1995年 日本評論社
- 各国警察制度の再編(法政大学現代法研究所叢書) 1995年 法政大学出版局
- (訳) 刑事施設と国際人権——国連処遇基準実施ハンドブック ピナル・リフォー
ム・インターナショナル著、葛野尋之・赤池一将・岡田久美子・岡田悦典・
佐々木光明ほかと共訳 1996年 日本評論社
- 入門・監獄改革(刑事立法研究会) 日本評論社
- 盗聴立法批判——おびやかされる市民の自由 小田中聰樹・川崎英明・白取祐司
と共著 1997年 日本評論社
- ちょっと待って少年法「改正」 団藤重光・斉藤豊治ほかと共著 1999年 日本
評論社
- 庭山英雄先生古稀祝賀記念論文集・民衆司法と刑事法学(秋山賢三・大出良知・
小田中聰樹・前野育三と共編) 1999年 現代人文社
- 現代法律百科辞典・全8巻 2000年 ぎょうせい

- 「改正」少年法を批判する 団藤重光・斉藤豊治ほか共著 2000年 日本評論社
- 梶田英雄判事守屋克彦判事退官記念論文集「刑事・少年司法の再生」2000年 現代人文社
- 盗聴法の総合的研究 奥平康弘・小田中聰樹・右崎正博・川崎英明・田島泰彦らと共著 2001年 日本評論社
- コンサイス法律学用語辞典 佐藤幸治・藤田宙靖・長尾龍一・淡路剛久・奥島孝康・寺田逸郎と共編 2003年 三省堂
- 21世紀の刑事施設：グローバル・スタンダードと市民参加（龍谷大学矯正・保護研究センター叢書第1巻） 2003年 日本評論社
- 死刑の代替刑としての終身刑をめぐる諸問題（龍谷大学矯正・保護研究センター研究叢書第2巻） 2003年 成文堂
- 刑事訴訟法 加藤克佳・川崎英明・後藤昭・白取祐司・高田昭正と共編 第1版 2004年、第2版2007年 日本評論社
- 刑務所改革のゆくえ：監獄法改正をめぐって（刑事立法研究会）2005年 現代人文社
- 監獄と人権 2005年 明石書店
- 刑事司法と心理学——法と心理学の新たな地平線を求めて（龍谷大学社会科学研究叢書）2005年 日本評論社
- （訳）拷問等禁止条約をめぐる世界と日本の人権（龍谷大学矯正・保護研究センター叢書）拷問等禁止条約の国内実施に関する研究会編著、今井直と共監修 2007年 明石書店
- 刑事司法改革と刑事訴訟法（上）（下） 川崎英明・白取祐司と共編 2007年 日本評論社
- 刑務所改革 菊田幸一・海渡雄一らと共著 2007年 日本評論社
- 更生・保護制度のゆくえ；犯罪を犯した人の社会復帰のために（刑事立法研究会） 2007年 現代人文社
- 刑務所民営化のゆくえ：日本版PFI刑務所をめぐって（刑事立法研究会） 2008
- （龍法 '10）42 - 3, 870 (1457)

年 現代人文社

前野育三先生古稀祝賀論文集「刑事政策学の体系」 2008年 法律文化社

被告人の事情/弁護人の主張——裁判員になるあなたへ 後藤貞人と共編 2009

年 法律文化社

他に、矯正講座（龍谷大学）22号より、龍谷大学矯正・保護研究センター研究
年報1号より編集および著

§ 論文、判例研究等 （判）＝判例研究 （座）＝座談会

1969年

過剰防衛の歴史的展開（1） 一論61巻6号

（判）盗犯等の防止及処分に関する法律1条2項の解釈 （最決昭42・5・26） 警
研40巻7号

心理学と刑法学との交錯——植松正先生の人と学問 一論62巻4号

1970年

（判）刑訴法411条第1号にあたらないとされた事例（最判昭43・11・26） 警研41
巻6号

1971年

（判）預金等に係る不当契約の取締に関する法律違反事件 経済法14号

1972年

正当防衛の限界とその過剰——歴史的考察 一法8号

第9回・第10回司法問題法学者懇話会（1972年4月・5月）（平松紘と共著）ジュリ
508号

交通事件と緊急避難 判タ284号

(書評) 斉藤欣子訳、J・H・スコールニック『警察官の意識と行動』 図書新聞

12月18日号

1973年

(判) 交通事故を起した車輛等の運転者において負傷者を救護し交通秩序も回復

され道路上の危険も存在しない場合と道路交通法72条1項後段の事故報告義務

の有無(最判昭48・3・15)判タ297号

刑法における目的論的方法 一論70巻6号

1974年

判例変更と罪刑法定主義 一論71巻1号

「連続か? 非連続か?」改正刑法草案の基本的性格・問題点について(特集

刑法改正の問題点) 法時46巻6号

刑の引上げと不定期刑・保安処分(刑法改正読本) 労働法律旬報862号

錯誤論の現状 法学教室(第二期)7号

1975年

公務執行妨害罪の研究(1)——近代刑法成立期における公務執行妨害罪 一法9号

公務執行妨害と職務の適法性 刑法2——各論(法セ増刊 セミナー法学全集16)

1976年

(判) 刑法126条1項にいう「破壊」の意義——刑法126条1項にいう電車の「破壊」

にあたるとされた事例(最判昭46・4・22) 警研47巻2号

(判) 裁判官の忌避(1)——検察官の職にあったことを理由とする場合(最決昭

47・7・1) 別冊ジュリ51号

刑法各論の方法論序説——刑法における機能的考察方法に関して 一論75巻4号

(龍法'10) 42・3, 872 (1459)

独占資本・政治反動と刑法改悪 「刑法改悪」(新日本新書) 新日本出版

併合罪、結果的加重犯 判例コンメンタル・刑法Ⅰ

流職の罪 判例コンメンタル・刑法Ⅱ

緊急避難の本質 中義勝編「論争刑法」 世界思想社

(判) 長い間パルプ工場の廃液による公害に悩まされてきた住民が、同工場の排水管を生コンクリートで封鎖した事案について、威力業務妨害罪が成立するとされた事例——いわゆる高知生コン事件判決(高知地判昭51・3・31) 判タ338号

1977年

公務執行妨害罪の研究(2):わが国における公務執行妨害罪規定の諸問題 一法10号

精神鑑定および責任能力 上野正吉ほか編「刑事鑑定の理論と実務」 成文堂

(判) 自然公園法24条1項2号にいう「展望所」の意義(最決昭和49・10・4) 警研48巻1号

1978年

内乱罪・騒擾罪と共犯例の適用、国交に関する罪、公務執行妨害罪における職務行為の適法性 有斐閣双書・刑法学6巻

(判)「職務を執行するにあたり」の意義(最判昭45・12・22) 別冊ジュリ58号

1979年

(書評) 庭山英雄著「民衆刑事司法の動態」 法時51巻1号

(判) 長田電報局事件上告審判決——1. 刑法95条1項にいう職務の範囲 2. 刑法95条1項における職務の執行中であるか否かの判断に際しその性質上ある程度継続した一連の職務として把握するのが相当であるとされた事例 3. 公務執行妨害罪の主観的成立要件としての職務執行中であることの認識の程度(最判昭

53・6・29) 判時916号

Juvenile Delinquency and Community, Hitotsubashi Journal of Law and Politics,
vol.8

弁護権の保障(法学文献案内-1-) 法セ290号

有事立法と八〇年代(1980年代の憲法状況〈シンポジウム〉) 法民137号

恐喝罪と賄賂罪 別冊法学セミナー・司法試験シリーズ刑法 第1版1979年 新
版1983年 日本評論社

少年非行と地域社会——三多摩地域を中心として(少年非行の実態と規制〈特
集〉) 一論82巻1号

(書評) 前野育三著「刑事政策と治安政策」 法時51巻12号

少年法改悪の意味するもの——刑事諸法制改正との関連で(迫る少年法「改正」
〈特集〉) 自正30巻11号

忌避制度の運用 「刑事訴訟法の争点」 有斐閣

(書評) 大岡昇平著「事件」(新潮社) ほんとぴあ 1978年10月1日号 一橋大
生協書籍委員会

1980年

正当防衛に関する錯誤と過剰防衛に関する錯誤 警研51巻4号

(書評) 関西非行問題研究会編『非行克服の現場と理論——「あきらめるな」から
の出發』関西非行問題5号

公務員の政治活動と犯罪(国民の政治的権利〈特集〉) 法時52巻6号

法廷等の秩序維持に関する法律の制定の歴史(国民と裁判所〈特集〉) 法時52巻
10号

(判) 国家公務員法100条1項にいう「秘密」の意義——国家公務員法100条1項に
いう「秘密」にあたるとされた事例(徴税トラの巻事件)(最決昭52・12・19)
警研51巻11号

(判) 退廷命令と擬制同意(最昭53・6・28) 別冊判タ7号

(龍法 '10) 42 - 3, 874 (1461)

(判) 電波法59条、109条1項にいう「窃用」の意義 (大阪高判昭53・5・9) 判時
947号

1981年

国家の存立に対する罪 有斐閣選書・刑法読本 有斐閣

(判) 機密資料を持ち出してコピーさせた行為と窃盗罪の成否 (東京地判昭55・
2・14) ジュリ743号

1982年

職務行為の適法性・合法性：公務執行妨害罪の研究・その2 (続) 一法12号

公務執行妨害罪における職務行為の適法性の錯誤 Law School 2巻6号

「意思刑法」等数項目 遠藤浩ほか編「現代法辞典」 ぎょうせい

「治療処分」論批判 (上) (下) 法時54巻6号7号

(判) 公務執行妨害罪における職務にあたとされた事例 (最決昭53・5・22)
警研53巻10号

治安政策の現況と刑法「改正」(刑事法「改正」にみる治安政策の展開〈特集〉)
法民172号

1983年

(文献紹介) ローレンス・J・コーエン、テリー・R・イエリック「労働関係にお
ける暴力に恐喝罪を適用するための諸努力」合衆国連邦刑法典改正に関する文
献紹介 (6、7)〈最近の外国刑法事情6、7〉 警研54巻1号2号

拘禁二法案の問題点 日本の科学者18巻1号

不法原因給付と詐欺・横領 西原春夫ほか編「判例刑法研究」6巻 有斐閣

有価証券偽造罪、印章偽造罪、往来妨害罪、浄水汚穢罪 西原春夫編「判例ハン
ドブック・刑法各論」 日本評論社

内閣総理大臣の職務権限と賄賂罪 (ロッキード裁判) 法時55巻6号

(座)《研究会》刑事再審の新展開(大出良知・小田中聰樹・竹沢哲夫・庭山英雄・光藤景皎と) 法時55巻10号

ロッキード田中判決を聞いて 読売新聞10.12(夕刊)

1984年

構造汚職と刑事裁判——10・12判決の提起した問題 世界460号

少年冤罪事件の構造と問題点 少年非行(法セ増刊 新・権利のための闘争)

誤判の原因徹底究明を——司法に深い反省を求める 毎日新聞7月11日夕刊

(判)「職務を執行するにあたり」の意義——長田電報局事件(最判昭53・6・29)
別冊ジュリ83号

(書評)赤羽忠之著「非行と教育を考える」(北樹出版) 赤旗1984年6月4日号

1985年

保安処分 澤登俊雄ほか編『刑事政策』 蒼林社出版

(判)国鉄電気機関士の出区点検行為と刑法95年条1項にいう公務員の職務(最決昭59・5・8) 判時1136号

(判)失業対策事業等に就労する日雇労働者と団体交渉権——団体交渉ないし団体行動権の正当な行使にあたらないとされた事例(最決昭54・12・19) 警研56巻3号

(判)薬事法2条1項の医薬品に該当するとされた事例(最決昭57・2・12) 警研56巻5号

(判)情報漏示と職務密接行為(最決昭59・5・30) 昭和59年度重要判例解説
有斐閣

1987年

刑事手続と最高裁判所(最高裁判所40年〈特集〉) 法時59巻9号

カリフォルニア最高裁判所首席判事の再任拒否と死刑問題 一論98巻5号

(龍法'10) 42 - 3, 876 (1463)

1988年

Current Problems of Juvenile Delinquency in Japan, Hitotsubashi Journal of Law and Politics, vol.16

盗聴と職権濫用罪 上田誠吉ほか編『警察の盗聴を裁く』（労働旬報社）

未決拘禁と収容問題（刑事・留置施設法案の研究〈特集〉）法時60巻3号

（座）判例回顧と展望＜1987年判例回顧と展望＞（伊藤眞・鎌田薫・杉原泰雄・角田邦重・浜川清と）法時60巻4号

公務執行妨害罪——職務行為の意義とその適法性をめぐって 芝原邦爾編「刑法の基本判例」 有斐閣

留置施設法案と被逮捕者「処遇」 東京弁護士会会報66

NHKテレビシンポジウム「開かれた裁判」 法民230号

政治資金規制法改正の動き 時事教養634号

（座）司法試験改革と法学教育（司法試験改革問題を考える〈特集〉）（木内宣彦・浦部法穂・佐上善和・浦川道太郎と）法セ466号

第2章公共の信用に関する罪、第3章公衆の健康に関する罪 小暮得雄ほか編『刑法講義各論 現代型犯罪の体系的位置づけ』 有斐閣

接見指定取消決定の効果と再度の指定（新・令状実務の諸問題8）法時60巻11号

政治・経済状況に振り回される被拘禁者の人権（監獄の現在〈特集〉——監獄法と被拘禁者の人権）法セ増刊 総合特集シリーズ

「新現代法論」の意義 <新・現代法論に望む> 法の科学16号 日本評論社

（判）公務執行妨害罪における職務にあたるとされた事例 『刑事判例評釈集』40巻（昭和53年度） 有斐閣

1989年

（座）判例回顧と展望＜1987年判例回顧と展望＞（梅本吉彦・奥島孝康・鎌田薫・角田邦重・浜川清と）法時61巻4号

(判) 犯罪の発生が予測される現場に設置されたテレビカメラによる犯罪状況の

撮影録画が適法とされた事例(東京高判昭63・4・1)判時1294号

罰金刑の将来 第二東京弁護士会刑法改正特別委員会報「こだち」26号

被告人の勾留理由開示請求(〈連載〉新・令状実務の諸問題) 法時61巻2号

学生・院生の交流について——特に外国人留学生の受け入れを中心として(アジ

ア諸国における日本法の研究・教育の現状と課題(国際シンポジウム1988年—
橋大学法学部)) 一法20号

刑罰改革の論理——アメリカにおける不定期刑の消長の歴史を中心として 一法
20号

開かれた司法への道—陪審裁判 時事教養643号

刑法総論(33)(34);不能犯(上)(下) 法セ410号411号

刑法の最新判例を読む(判例ってなんだ?〈特集〉) 法セ411号

国交に関する罪、公務の執行を妨害する罪、逃走の罪、犯人蔵匿および証憑隠滅
の罪 『判例マニュアル・刑法Ⅱ各論』三省堂

冤罪生む見込み捜査——綾瀬母子殺人事件 毎日新聞9.12夕刊

(書評)三井誠ほか編「刑事手続(上、下)」 法時61巻5号

刑事裁判の現状とその問題点(日本の刑事裁判と被告人・被疑者の人権〈特集〉)
法民237号

保釈と罪証隠滅のおそれ(新・令状実務の諸問題13) 法時61巻6号

西ドイツにおける刑事弁護制度改革の動向について(6) 弁護人の排除、共通
弁護の禁止 最近の外国刑法事情 警研60巻6号

日本における刑罰改革論議 韓日法学研究第8輯

冤罪防止策——鑑定・上訴・再審を中心として(刑事手続の改革〈特集〉事実認
定と誤判救済) 法時61巻10号

1990年

言いたい放題刑事訴訟法(1)——検察官はなぜやめる——私の検察官印象論

(龍法'10)42-3, 878(1465)

法セ431号

言いたい放題刑事訴訟法 (2) ——刑事裁判記録のゆくえ 法セ432号

少年審判と民衆参加 石松竹雄判事退官記念論文集「刑事裁判の復興」 勁草書房

不能犯 芝原邦爾・堀内捷三・町野朔・西田典之編「刑法理論の現代的展開・総論2」 日本評論社

(文献紹介) Jennifer Temkin, Rape and the Legal Process 法社会学42号

1991年

共謀共同正犯——否定説の立場から (共謀共同正犯理論の総合的研究〈特集〉) 刑法31巻3号

言いたい放題刑事訴訟法 (3) ——ジョージ・オーウェルの世界 (1) 警備警察活動と監視カメラ 法セ433号

言いたい放題刑事訴訟法 (4) ——ジョージ・オーウェルの世界 (2) 捜査と監視カメラ 法セ434号

判例回顧と展望1990/刑法 (佐々木光明・前田朗と共著) 臨増法時63巻3号

言いたい放題刑事訴訟法 (5) ——令状主義はだれのもの? 法セ435号

言いたい放題刑事訴訟法 (6) ——「ミランダ」への道——被疑者の取調べ 法セ436号

言いたい放題刑事訴訟法 (7) ——捜査は、いつ終わる? ——少年事件と捜査 法セ437号

(助言者の発言) (第13回司法シンポジウムにおける討論 第4の柱「我が国の司法制度と国民の司法参加」の討論) 司法改革の提言 シンポジウムの記録 日本弁護士連合会

「刑事拘禁法要綱」研究会試案の趣旨 法時63巻6号

挙証責任と推定/公訴の提起と犯罪の嫌疑 刑事訴訟法の争点 (第3版) 有斐閣
暴力団・麻薬立法の問題 法時63巻7号

言いたい放題刑事訴訟法 (8) ; 保護手続と刑事手続 (1) —— 少年は、いわれの
ない拘禁から「保護」されない? 法セ438号

言いたい放題刑事訴訟法 (9) ; 保護手続と刑事手続 (2) —— 少年の刑事処分と
は? 法セ439号

言いたい放題刑事訴訟法 (10) (11) —— 盗聴は許されるのか? (1) (2) 法セ
440号441号

少年犯罪、厳罰を加え隔離すればいいのか? —— 「女子高生コンクリート殺人」
二審判決への疑問 月刊Asahi 9月号

言いたい放題刑事訴訟法 (12) —— 代用監獄とは? ; 逮捕・勾留の場所 法セ
442号

第5部 施設内処遇 「少年司法と国際準則」 三省堂

(座) 言いたい放題刑事訴訟法／番外編 (上) (下) (石松竹雄・岡崎敬・大出良
知と) 法セ443号444号

(判) 過失推定説 (最判昭39・3・3) 刑法判例百選1総論 (第三版) 有斐閣

1992年

1989年イギリス刑法典草案——条文訳出と解説 法学志林89巻2号

司法試験 (論文式) で何が求められているか—刑事訴訟法 別冊法学セミ117号
司法試験シリーズ別巻『司法試験案内・論文式』

言いたい放題刑事訴訟法 (13) —— イギリスの刑事司法めぐり (1) 陪審員たち
は裁いた 法セ445号

言いたい放題刑事訴訟法 (14) —— イギリス刑事司法めぐり (2) 私の裁判官で
ある陪審員諸氏 法セ446号

(座) 当番弁護士制度の現状と課題 (当番弁護士制度——被疑者弁護の充実を求
めて〈特集〉) 自正43巻2号

少年手続と除斥、忌避 (少年事件の最近の諸問題〈特集〉) 刑法32巻2号

判例回顧と展望／刑法 (佐々木光明・前田朗と共著) 臨増法時64巻4号

(龍法 '10) 42 - 3, 880 (1467)

DNA鑑定、刑事裁判の証拠に疑問（私見/直言） 毎日新聞4.30朝刊

言いたい放題刑事訴訟法（15）——被疑者と被告人の間 法セ447号

言いたい放題刑事訴訟法（16）——外国人の刑事手続 法セ448号

言いたい放題刑事訴訟法（17）——訴訟指揮 法セ449号

報告 総論（刑事拘禁法の諸問題〈特集〉）刑法32巻3号

（書評）角田由紀子著「性の法律学」（有斐閣選書） 法時64巻7号

少年手続と憲法判例のあり方 法民268号

第3章 計算／第4章 刑ノ執行猶予／第5章 仮出獄／第6章 刑ノ時効及ヒ刑
ノ消滅 大谷實編「要説コンメンタール 刑法総論（総則）」三省堂

第5章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪 大谷實編「要説コンメンタール 刑法各論
（罪）」三省堂

浦安暴走族乱闘（中国残留孤児2世）事件（2）——少年事件研究会レポート（2）
（葛野尋之と共著）法時64巻7号

言いたい放題刑事訴訟法（18）——共犯者の自白 法セ450号

言いたい放題刑事訴訟法（19）——供述と非供述のはざま 法セ451号

言いたい放題刑事訴訟法（20）——いわゆる「DNA鑑定」のこと 法セ452号

言いたい放題刑事訴訟法（21）——意見と鑑定 法セ453号

言いたい放題刑事訴訟法（22）——証明されるべき「事実」 法セ454号

最近の外国刑法事情（117）：イギリス行刑白書 警研63巻11号

言いたい放題刑事訴訟法（23）——「疑い」は払拭されたか？：証明の程度と責
任 法セ455号

言いたい放題刑事訴訟法（24）——「起訴」の当・不当を決めるもの 法セ456
号

（判）不燃性建造物と放火罪（最決平1・7・7）別冊ジュリ117号

（判）迅速な裁判——高田事件（最判昭47・12・20）別冊ジュリ119号

1993年

フォーラム・もうひとつの「監獄法」(12)——飛び立てない青春；塙の中の少年たち 法セ457号

(座)『自白の研究』を読む(上)(中)(下)——自白分析の到達点と虚偽自白排除の可能性 (守屋克彦・浜田寿美男・大出良知と) 法セ457号458号459号

言いたい放題刑事訴訟法(25)——「審理不尽」の不思議 法セ458号

刑事裁判におけるDNA鑑定の問題状況——全般的状況と運用基準の分析(含資料)(DNA鑑定と刑事手続〈特集〉) 法時65巻2号

言いたい放題刑事訴訟法(26・完)——冤罪よ、さようなら 法セ459号

判例回顧と展望／刑法(佐々木光明・前田朗と共著) 臨増法時65巻4号

「それなりの証明」で死刑——名張事件再審請求異議審決定批判(名古屋高決平5・3・31)(大出良知と共著) 法セ463号

刑事弁護の歴史と課題(被疑者国(公)選弁護制度の実現に向けて〈特集〉) 自正44巻7号

(座)被疑者国(公)選弁護制度の実現に向けて(佐木・飯室・寺崎・大出・佐藤・寺井・上野・中村・中嶋・三木・濱口・内山・稲田と) 自正44巻7号

(座)監獄法改正で、いま何が求められているのか(上)(下) (鴨下守孝・古瀬駿介・澤登俊雄・福田雅章と) 法セ465号466号

「究極の人権侵害」としての死刑(死刑廃止を求める刑事法研究者意見集) 法セ466号

刑法の現代用語化について 三省堂ぶっくれっと102「刑法の現代用語化(特集)」 三省堂

(座)刑法のことば・市民のことば／刑法現代用語化はだれのために(上)(下)(木佐敬久・小中陽太郎と) 三省堂ぶっくれっと102、103「刑法の現代用語化(特集)」 三省堂

(座)構造的汚職と国政調査権の再生；構造的汚職と国政調査権(清水睦・大出良知・杉原泰雄と) 法時65巻10号

(龍法'10) 42 - 3, 882 (1469)

疑わしいときは被告人の利益に解釈すべし——刑法解釈における静と動——

福田平・大塚仁博士古稀祝賀「刑事法学の総合的検討」 有斐閣

あとがき 福田平・大塚仁博士古稀祝賀「刑事法学の総合的検討」有斐閣

保安処分 澤登俊雄・所一彦・星野周弘・前野育三編「新・刑事政策」日本評論社

押収及び搜索116条～127条 別冊法セミ・基本法コンメンタール（第3版）

(16) 保釈と罪証隠滅のおそれ／(17) 被告人の勾留理由開示請求／(24) 接見指定取消決定の効果と再度の指定 村井・後藤編著「現代令状実務25講」日本評論社

「行刑施設における人権」について——その紹介とコメント 法学志林91年巻2号

1994年

「考える姿勢」がほしい 受験新報516号

3 イギリス／第1章 イングランド・ウェールズにおける少年司法の歩み 「世界諸国の少年法制」 成文堂

民科・法学教育の現実と理念（「法学教育」の総合的研究〈特集〉）法科22号

刑事裁判における証明基準の憲法的基礎（Ⅱ 自由）杉原泰雄教授退官記念論文集「主権と自由の現代的課題」 勁草書房

刑法と刑事訴訟法の交錯（1）——「犯罪」と「刑罰」の法 時法1471号

被疑者弁護と法律扶助——イギリスにおける刑事法律扶助制度の新展開 吉川経夫先生古稀祝賀論文集「刑事法学の歴史と課題」 法律文化社

（対談）吉川先生『刑法改正』を語る（吉川経夫と）吉川経夫先生古稀祝賀論文集「刑事法学の歴史と課題」 法律文化社

DNA鑑定（法医鑑定をどのように争うか）「刑事弁護の技術」 第一法規出版社

刑法と刑事訴訟法の交錯（2）罪刑法定主義とデュープロセス 時法1472号

刑法と刑事訴訟法の交錯（3）マグナ・カルタと罪刑法定主義 時法1473号

刑法と刑事訴訟法の交錯 (4) (5) (6) イギリス刑事手続のいろいろ (1) (2) (3)
時法1477号1479号1481号

刑法と刑事訴訟法の交錯 (7) (8) ヨーロッパ刑事法の旅 (1) (2) 時法1483号
1485号

いまなぜ付審判事件か 村井・高山・二瓶編著「検証 付審判事件——全裁判例
とその検討」 日本評論社

法律学は何をなすべきか(法律家として市民として死刑問題をどう考え、いかに
むきあうのか〈特集〉4.23死刑シンボから) 法民292号

捜査の構造 川端博・田口守一編「刑事訴訟法(基本問題セミナー)」 一粒社
刑法と刑事訴訟法の交錯 (9) 日本人留学生射殺事件に見るアメリカ刑法 時法
1487号

「三重の残酷性」を持つ死刑の現実 「死刑廃止を求める」 日本評論社

1995年

日本における公務員の賄賂行為と賄賂罪 中国社会科学院法学研究所編 「中日
公務員賄賂犯罪研究」(中日公務員賄賂犯罪国際研究会) 中国社会科学出版
社

刑法と刑事訴訟法の交錯 (10) ルイジアナ刑事法における英米法と大陸法 時法
1489号

(座) 刑事弁護はどこまで到達したか——刑事弁護の実践と理論を検証する (竹
澤 哲夫・大川 真郎・丹治 初彦・小田中 聰樹・三井 誠・大出良知と) 刑弁1
号

イギリスにおけるDNA鑑定と刑事弁護<法医学鑑定の動き1> (田淵浩二と共著)
刑弁1号

刑法と刑事訴訟法の交錯 (11) 銃器の使用と刑事法 時法1491号

政治家の刑事責任(法律時評) 法時67巻3号

イギリス警察改革の動向 法学志林92巻3号→「各国警察制度の再編」〈法政大学

(龍法 '10) 42 - 3, 884 (1471)

現代法研究所叢書14) としても出版

麻薬立法の論点 ((日本刑法学会第71回大会) ワークショップ) 刑法34巻1号

アメリカ啓蒙期における刑法学 風早八十二先生追悼論文集「啓蒙思想と刑事法」

勁草書房

刑法と刑事訴訟法の交錯 (12) (13) ; 正当防衛の觀念の相違 (1) (2) 時法

1493号1495号

刑事法律扶助の現実と理論<特集・世界の刑事法律扶助と被疑者弁護> 刑弁2

号

刑法と刑事訴訟法の交錯 (14) ; 継続的な暴行、強姦の被害者と正当防衛 時法

1497号

刑法と刑事訴訟法の交錯 (15) (16) ; 刑事法における合理性 (1) (続) 時法

1499号1501号

密室の中での取調と被疑者弁護の意義 法セ488号

刑法と刑事訴訟法の交錯 (17) ; 刑法の解釈と事実認定 時法1505号

刑法と刑事訴訟法の交錯 (18) ; 解釈と認定における「疑い」の意味 時法1507

号

刑法と刑事訴訟法の交錯 (19) (20) ; 自殺罪の東西比較法文化 (1) (2) 時法

1509号1511号

刑事司法におけるDNA分析の意義——法学面の立場から——(日本DNA多型学会

誌) DNA多型3号

DNA多型の日本における研究状況 刑弁3号

両「天秤」 数学セミナー1995年10月号 日本評論社

英米の法体系—各国刑事裁判手続への誘い<特集・法律とミステリの熱い関係>

ミステリマガジン471号 早川書房

1996年

少年手続をめぐる現今の議論状況 国土館法学28号

刑法と刑事訴訟法の交錯（21）；供述のうそとまこと 時法1513号

（対論）司法手続きはこれでいいのか（特集 オウム事件をどうみるか 市民社会の安全と法を検証する） 法セ494号

刑法と刑事訴訟法の交錯（22）；贈収賄罪に見る実体法と手続法 時法1515号

刑事法的観点からみた破防法の問題点 奥平康弘編「破防法でなにが悪い!？」日本評論社

刑法と刑事訴訟法の交錯（23・完）；国際社会と刑事人権 時法1519号

（鼎談）白鳥決定が生み出したもの（白鳥・財田川決定の20年——再審の扉は開かれたのか（2）） 法セ497号

（12）飛び立てない青春 刑事立法研究会編「入門・監獄改革」 日本評論社
人権から破防法を考える（特集 破防法をめぐる諸問題）法時68巻9号

法学部大学院の社会人特別選考について 時法1527号

刑事法の現在と未来（500号記念特集・第3弾 これからの刑事法をどうする）
法セ502号

イギリスの少年司法<ネットワーク世界の刑事司法/少年司法編> 刑弁9号

憲法違反の疑い濃い刑事法制の見直し案（破防法適用の次は「盗聴捜査」の合法化） 週刊金曜日1996年11月8日

オウム事件捜査をめぐる法律問題 朝日年鑑1996 朝日新聞社

1997年

刑事裁判の生命を殺すロス事件東京地裁判決 現代人文社編集部（編） 「11年目のロス「疑惑事件」」（GENJINブックレット04） 現代人文社

段階的死刑廃止論の一例——サミュエル・ロミリーの死刑廃止論 中山研一先生
古稀祝賀論文集4「刑法の諸相」 成文堂

盗聴立法は憲法要件を具備しうるか（組織犯罪立法——なにが問題か） 法セ507号

司法修習制度の改革について（特集 危機的状況を迎えた法曹養成） 法民317号

（龍法 '10）42 - 3, 886（1473）

破防法団体解散処分請求棄却をめぐる（法律時評） 法時69巻6号

憲法的刑事司法のシェーマ（特集 いまこそ刑事司法改革を——憲法的刑事訴訟
法の実現のために） 法セ510号

（判）判例変更と遡及処罰の禁止（最判平8・11・18） ジュリ1113号

密室の中での取調べと被疑者弁護の意義 ミランダの会編 「ミランダの会」と
弁護活動：被疑者の権利をどう守るのか？」 現代人文社

刑事訴訟法学の課題と方法（特集 刑事訴訟法の基本理念） 法時69巻9号

盗聴法案と刑訴法の将来（盗聴問題の総合的検討3） 法時69巻11号

適用されなかった破防法（2）破防法の存在意義と盗聴法案 法セ514号

憲法違反の疑い濃い刑事法制の見直し案 「盗聴法がやってくる」（GENJINブッ
クレット06） 現代人文社

（判）不燃性建造物に対する放火罪（最決平1・7・7）別冊ジュリ143号

1998年

最高裁判所発足50年と刑事手続（特集 最高裁判所の現在と行方）法時70巻1号

刑事立法の妥当性——盗聴の法制化問題を題材にして 西原春夫先生古稀祝賀論
文集（第4巻） 成文堂

（座）盗聴法と令状実務の実態（松島暁・田鎖麻衣子・海渡雄一と） 「盗聴法
がやってきた：とうとう盗聴法が国会に提案された 盗聴法の真の狙いは何か」
（GENJINブックレット08） 現代人文社

盗聴法案と令状実務——裁判官の市民的自由との関連において 刑弁15号

刑事弁護の有効性、相当性——三つの事例を素材にして 竹澤哲夫先生古稀祝賀
記念論文集「誤判の防止と救済」 現代人文社

知られざる罪と罰（民衆の中の法意識）（1）知らされないはずの法度と知ってい
るはずの法律 法セ526号

少年事件と情報公開（特集 少年法厳罰化で解決するか——法の理念から問う焦
点）法セ527号

知られざる罪と罰 (2) 「おそろしや」 鈴ヶ森——死刑の残虐性 法セ527号

知られざる罪と罰 (3) ミヽヲキリ、ハナヲソキ、カミヲキリテ、アマニナシテ
法セ528号

(判) 任意性に疑いのある自白の証拠能力 (仙台家決昭41・2・8) 別冊ジュリ147
号

(判) 厳格な証明と自由な証明 (最決昭58・12・19) 別冊ジュリ148号

1999年

知られざる罪と罰 (4) 私刑 (リンチ) の極 (きわみ) : 拷問 法セ529号

知られざる罪と罰 (5) 拷問を実効的に禁止するには 法セ530号

知られざる罪と罰 (6) 流刑と民衆 法セ531号

刑事訴訟改革の基本的視点 (特集 刑事訴訟改革の課題と展望) 法時71巻3号

(座) 刑事訴訟改革の課題と展望 (特集 刑事訴訟改革の課題と展望) (大出良知・
川崎英明・白取祐司・高田昭正・福島至・上田國廣・村岡啓一と) 法時71巻
3号

知られざる罪と罰 (7) 佐渡水替人足から人足寄場へ 法セ532号

問題の所在 (特集 刑事司法情報の保存と公開) 刑法38巻3号

知られざる罪と罰 (8) (9) 鬼平と人足寄場 (上) (下) 法セ533号534号

死刑廃止の具体策について : 死刑の代替刑論に対して 庭山英雄先生古稀祝賀記
念論文集「民衆司法と刑事法学」 現代人文社

知られざる罪と罰 (10) 犯罪と刑罰の関係 法セ535号

追悼・植松正先生 刑法39巻1号

知られざる罪と罰 (11) 『罪と罰』をめぐる 法セ536号

刑事手続における被害者の地位 (特集 犯罪被害者救済と適正手続) 法民341号

少年法の理念と問題点——改正論議に関連して (シンポジウム 少年非行と少年
法) 法時71巻10号

知られざる罪と罰 (12) (13) 窃盗に見る罪の歴史 (1) (2) 法セ537号538号

(龍法 '10) 42 - 3, 888 (1475)

共謀共同正犯における実行行為者の変更と訴因変更 井戸田侃先生古稀祝賀論文集「転換期の刑事法学」 現代人文社

組織的犯罪対策法の背後にあるもの（特集 盗聴法と市民的自由——盗聴法の法的批判） 法時71巻12号

知られざる罪と罰（14）盗賊の正義 法セ539号

知られざる罪と罰（15）「義賊とはいふ条、所詮は盗人」か 法セ540号

2000年

知られざる罪と罰（16）政治と犯罪 法セ541号

知られざる罪と罰（17）権力への反抗の罪 法セ542号

知られざる罪と罰（18）（19）（20）大逆事件（上）（中）（下）法セ543号544号545号

少年法の立法学序説（第1部 少年法の基礎）澤登俊雄先生古稀祝賀論文集「少年法の展望」現代人文社

司法改革とこれからの法律家 受験新報593号

司法改革と刑事司法の課題（特集 司法改革の課題と展望）学術の動向 日本学術協力財団 5巻5号

（座）裁判官をしばってきたもの——独立性の確保から司法改革へ（特集 裁判官「独立」の処方せん（Part1））（阿部泰隆・辻公雄・守屋克彦・木佐茂男と）月刊司法改革9号 現代人文社

〈ラジオたんぱ〉慶応義塾の時間 法と心理学 第4回 現状とこれからすべきこと 三色旗 慶応通信

知られざる罪と罰（21）冤罪の歴史——古代編 法セ546号

知られざる罪と罰（22）冤罪：古くて新しいもの 法セ547号

知られざる罪と罰（23）現代の冤罪 法セ548号

裁判官独立保障のための改革案 特集執筆者からの提言 月刊司法改革10号

知られざる罪と罰（24）戦後の冤罪事例（1）法セ549号

知られざる罪と罰 (25) 戦後の冤罪事例 (2) 松川事件と裁判批判 法セ550号
総論 事例で学習する生きた刑事法 (特集 刑事法のプロセスがわかる) 法セ551号
知られざる罪と罰 (26) 司法犯罪としての冤罪 法セ551号
知られざる罪と罰 (最終章) 犯罪と刑罰を見る視点 法セ552号
接見交通権の保障と信書の発受の秘密性 渡部保夫先生古稀記念論文集「誤判救済と刑事司法の課題」 日本評論社
少年司法における裁判官の役割 梶田英雄判事守屋克彦判事退官記念論文集「刑事・少年司法の再生」 現代人文社
少年法の原点 「改正」少年法を批判する」 日本評論社
刑事司法と法曹養成 龍谷大学法科大学院シンポジウム・法へのアクセス—市民が育てる明日の法律家— 龍谷法学特別号
司法改革と刑事手続—刑事裁判はどう変るべきか (一橋大学開放講座) 如水会
会報848号

2001年

戦後日本の矯正改革における刑務作業の位置付けと本特集の意義 矯正講座 (龍谷大学) 22号 成文堂
刑事司法における被害者 (特集 刑事司法における被害者) 刑法40巻2号
賄賂をめぐる罪と罰 「いま日本の法は」 (第3版) 日本評論社
組織的犯罪対策法の背後にあるもの 奥平・小田中・右崎・川崎・田島編「盗聴法の総合的研究:「通信傍受法」と市民的自由」 日本評論社
刑事司法の改革について (特集「この国のかたち」と司法改革——司法の現場状況から見た司法改革) 法時73巻7号
連載を始めるにあたって (論争・刑事訴訟法 捜査の概念) (田口守一・白取祐司と共著) 法セ561号
論争・刑事訴訟法 (2) 対談 捜査の概念 (田口・白取と共著) 法セ562号
高見・岡本国賠訴訟意見書 高見・岡本国賠訴訟弁護団編「秘密交通権の確立: (龍法 '10) 42 - 3, 890 (1477)

高見・岡本国賠訴訟の記録」 現代人文社

責任能力（第2特集 どうする触法精神障害者と社会）法セ563号

無罪推定原則の意義 光藤景皎先生古稀祝賀論文集（上巻） 成文堂

2002年

巻頭言 刑事施設の現況と矯正・保護研究センターの設立の意義 矯正講座23号
成文堂

Critical Issues in the Lawmaking Policy of Japanese Criminal Procedure: The Wiretap Act and the Adversary System at the Pretrial System, in The Japanese Adversary System in Context: Controversies and Comparisons ed. by Macolm M. Feeley & Setsuo Miyazawa Palgrave Macmillan

刑事法律扶助の課題（法律扶助の課題 1 司法制度改革と法律扶助）「日本の法律扶助 五〇年の歴史と課題」 法律扶助協会

特別企画 激論 司法改革は刑事弁護の危機を招くのか？——京都・当番弁護士を支える市民の会3周年記念シンポジウムより 刑弁30号

（座）動き出した刑事司法改革：司法制度改革をどう受け止め、どう批判し、どう発展させるのか（飯室勝彦・川崎英明・竹之内明・白取祐司と） 法時74巻7号

法律時評 懸念される法科大学院の行く末 法時74巻13号

函館少年刑務所（矯正施設参観記）矯正講座23号

2003年

（書評）日本弁護士連合会編『検証 少年犯罪』 自正54巻2号

現代刑事法理論の変化について 廣瀬健二・多田辰也編「田宮裕博士追悼論集（下）」 信山社

巻頭言 理論と実務の共同・協力の本格的幕開け——矯正・保護研究センター開設 矯正講座24号

新司法試験、司法修習のあり方（小特集 法科大学院教育の残された課題——学部・法科大学院・研修所（その2）） 法時75巻4号

はしがき 日本刑法学会編「日本刑法学会50年史」 有斐閣

論争・刑事訴訟法（17）少年審判と刑事裁判の関係（廣瀬健二・斉藤豊治と共著）
法セ582号

少年犯罪の実名、仮名報道をめぐる裁判例について（子ども・教育と裁判）季刊
教育法137号

市民に根ざした刑事施設構想のために 刑事立法研究会編「21世紀の刑事施設：
グローバル・スタンダードと市民参加」（龍谷大学矯正・保護研究センター叢
書1） 日本評論社

論争・刑事訴訟法（18）対談・少年審判と刑事裁判の関係（廣瀬・斉藤と共著）
法セ583号

拡大する「共謀」概念の批判的検討 能勢弘之先生追悼論集「激動の刑事法学」
信山社

まとめ 龍谷大学「遺伝子工学と生命倫理と法」研究会編「遺伝子工学時代にお
ける生命倫理と法」（龍谷大学社会科学研究所叢書52） 日本評論社

（座）子どもの権利条約と子どもの自己決定をめぐる（鮎川潤・内田伸子・加
藤貴生・二宮周平と） 法時75巻9号

国際的視点から見た終身刑 「死刑の代替刑としての終身刑をめぐる諸問題」（龍
谷大学矯正・保護研究センター研究叢書第2巻） 成文堂

名古屋刑務所事件と行刑改革のゆくえ 刑弁36号

2004年

刑事弁護の原点研究——正本文庫の意義 龍谷大学矯正・保護研究センター研究
年報1号

基調講演 ここまできた司法改革と法科大学院構想等の現実（特集 ここまできた
司法改革——これからの課題——第36回司法制度研究集会から）法民385号

（龍法 '10）42 - 3, 892（1479）

関連性の問題 加藤・川崎・後藤・白取・高田・村井編著『刑事訴訟法』（法科大学院ケースブック）日本評論社

学者の見た行刑改革会議の提言（特集1 行刑改革会議の提言）自正55巻4号

（座）司法改革が法学教育に与える影響——法科大学院を中心として（梶島裕之・鎌野邦樹・白取祐司・山崎雄一郎と） 法時76巻5号

（座）刑事司法はどう変わるのか（特集 姿を見せた刑事司法改革）（白取祐司・飯室勝彦・安原浩・岡慎一・川崎英明と） 法時76巻10号

（対談）少年法の課題と未来の少年司法像（斉藤豊治と） 葛野尋之編「『改正』少年法を検証する」 日本評論社

2005年

台湾行刑視察雑感（矯正施設参観記 2004年度「矯正・保護課程」共同研究・施設参観報告）矯正講座26号

緊急避難論の歴史と課題（特集 緊急避難論の新展開） 現刑7巻1号

団藤文庫の意義 龍谷法学37巻4号

（緊急（座））4 刑務所改革の到達点とゆくえ：「刑事施設及び受刑者の処遇等に関する法律案」をめぐって（土井和政・中川孝博と） 刑事立法研究会編「刑務所改革のゆくえ：監獄法改正をめぐって」 現代人文社

刑事司法における心理学の活用/（1）誤起訴・誤判の原因に関する意識調査：弁護士と学生、および個別事例にもとづく判断と一般的判断の比較（仲真紀子・一瀬敬一郎と共著）/（4）公務執行妨害事例における警察官と市民との接触
村井敏邦編『刑事司法と心理学——法と心理学の新たな地平線を求めて』（龍谷大学社会科学叢書61）日本評論社

目撃供述ガイドライン作成のために（10）目撃供述ガイドラインの意義 刑弁42号

未決拘禁制度の改革と展望（特集1 21世紀の行刑改革——未決・既決のありかたを考える（2）） 自正56巻10号

戦後の刑法改正と重罰化 小田中聰樹先生古稀記念論文集「民主主義法学・刑事
法学の展望（下巻）」 日本評論社

2006年

無期刑と仮釈放の沿革と現状（特集 長期受刑者処遇の現状と課題） 龍谷大学
矯正・保護研究センター研究年報3号

処遇における創意・工夫——行刑改革への先駆的取り組み 矯正講座27号

平野龍一博士の刑事実体法論——そのイデオロギー的背景について（追悼企画
平野龍一博士の刑事法学） 刑法45巻2号

不安・不信・不寛容の治安政策（特集 小泉「構造改革」と憲法学の課題——治
安強化と市民的自由） 法時78巻6号

（反論）『民衆から見た罪と罰—民間学としての刑事法学の試み』についての北澤
信次氏の書評に対するリスポンス 犯罪社会学研究31号

（座）改正受刑者等処遇法（未決拘禁法）によって何が変わるのか（特集 未決拘
禁制度の改革）（海渡雄一・秋田真志・水谷規男と） 刑弁47号

パネルディスカッション 法科大学院教育と目指すべき法曹像：市民のために働
く法律家とは何か（宮澤節生・松岡久和・徳田靖之・吉田容子・本田達夫・田
中則夫と） 龍谷法学38巻3号

戦後司法改革と裁判官のあり方 宮本康昭先生古稀記念論文集「市民の司法をめ
ざして」 日本評論社

近代刑法理論に逆行する共謀罪 田島泰彦・斎藤貴男編「超監視社会と自由：共
謀罪・顔認証システム・住基ネットを問う」 花伝社

2007年

少年司法の実務と理論——現状と展望 龍谷大学矯正・保護研究センター研究年
報4号

行刑改革における理念と現実 菊田幸一・海渡雄一「刑務所改革」 日本評論社

画家と犯罪——カラヴァッジョとアルテミージアに見る犯罪の加害と被害 龍谷
法学39巻4号

拷問禁止を巡る日本の状況 拷問等禁止条約の国内実施に関する研究会（村井敏
邦・今井直編）「拷問等禁止条約をめぐる世界と日本の人権」（龍谷大学矯正・
保護研究センター叢書6） 明石書店

諸外国の検死制度（イタリア） 福島至編「法医鑑定と検死制度」（龍谷大学社
会科学研究所叢書74） 日本評論社

司法改革と刑事訴訟法のあり方 村井・川崎・白取編「刑事司法改革と刑事訴訟
法」（上巻） 日本評論社

弁護人以外の者との接見と刑訴法81条 鈴木茂嗣先生古稀祝賀論文集（下巻）
成文堂

正木ひろしの刑事弁護に学ぶ（特集 刑事弁護活動の限界に挑む——積極的弁護
のすすめ）刑弁 50号

刑事司法改革を読み解く（特集 刑事司法改革を読み解く） 法セ630号

（座）法科大学院での刑事実務教育——刑事司法改革のねらいを法科大学院でど
のように教育するのか（特集 刑事司法改革を読み解く）（四宮啓・日野正晴と）
法セ630号

科学と社会 犯罪に対する不安感と科学の役割 学術の動向（日本学術協力財団）
12巻8号

（判）祖父母による孫（当時3歳）の未成年者誘拐事件につき、実刑に処した第一
審判決を維持した控訴審判決の刑の量定が甚だしく不当であるとして破棄さ
れ、執行猶予が言い渡された事例（最判平18・10・12） 速報判例解説（法セ
増刊）1巻

（特別対談）真に開かれた法科大学院をめざして（梶島裕之と） 「法科大学院
パーフェクトブック2007／2008年版」 東洋経済新報社

2008年

(書評) 日本弁護士連合会編「法廷弁護技術」自正59巻1号

(座) 3 PFI施設の今とこれから：日本版PFI刑務所について (赤池一将・歌代正・太田幸充・佐々木純・末岡竜夫・中島学・福田雅章・吉野智と) 刑事立法研究会編「刑務所民営化のゆくえ：日本版PFI刑務所をめぐる」 現代人文社

画家と犯罪 (2)；被害者としての画家：アルテミージャ 龍谷法学40巻4号

矯正施設における宗教意識・活動に関する研究——中間報告 社会科学研究年報 (龍谷大学) 2008年度

吉川先生と東京刑事法研究会——刑事立法問題を中心として (故 吉川経夫名誉教授 追悼号) 法学志林105巻4号

「テロ対策と厳罰化」試論 前野育三先生古稀祝賀論文集「刑事政策学の体系」 法律文化社

犯罪被害者をめぐる問題状況 (特集 犯罪被害者支援) 月報司法書士437号

犯罪前歴者の再犯防止の課題と展望 (特集 累犯者の処遇と交通犯罪) 犯罪と非行157号

戦後刑事法学に反省はあったか (法律時報1000号記念企画) 法時80巻10号

裁判員裁判と刑事実体法 (連続特集 裁判員裁判をどう闘うか (6) 裁判員制度と実体法) 刑弁56号

2009年

刑事法における法社会学と法解釈学 渡辺洋三先生追悼論集「日本社会と法律学：歴史、現状、展望」 日本評論社

日本の刑事・少年司法と薬物規制 「矯正講座」29号 (「矯正・保護課程」開設30周年記念号)

犯罪被害者をめぐる問題状況 月報司法書士437号

電気椅子で処刑された最初の日本人 月刊BAN9月号 教育システム

法律時評 足利事件が投げかけたもの 法時81巻10号

裁判員制度、なぜ〈そのみちのコラム〉 時法1825号

(書評) スティーヴン・A・ドリズィン、リチャード・A・レオ著、伊藤和子訳

「なぜ無実の人が自白するのか：DNA鑑定は告発する」 自正60巻8号

2010年

取調べ全過程の録音・録画の一日も早い実現を——高野山事件の録音結果分析を
中心として 刑弁61号

治安政策と憲法——海賊対処法を素材に 法学館憲法研究所報2号

略語について

文献の略語は、警察研究以外は法律時報の文献略語に従った。

一論＝一橋論叢

一法＝（一橋大学）法学研究

刑弁＝季刊刑事弁護

刑法＝刑法雑誌

現刑＝現代刑事法

自正＝自由と正義

ジュリ＝ジュリスト

判時＝判例時報

判タ＝判例タイムズ

法時＝法律時報

法セ＝法学セミナー

時法＝時の法令

法科＝法の科学

法民＝法と民主主義

警研＝警察研究